

# 吉里吉里学園施設整備基本方針及び基本計画

令和 7 年 8 月 21 日 大槌町教育委員会

## 1 はじめに

吉里吉里学園小学部の校舎は建築から 20 年以上経過しており、令和 3 年 3 月に策定した「大槌町学校教育系施設長寿命化計画」に従い長寿命化に係る改修が必要な時期となっています。

また、令和 6 年 10 月、吉里吉里学園 P T A から児童・生徒数が年々減少傾向にあるため各校単独での行事開催が難しくなっている等の理由により、現行の施設分離型から中学部の施設を小学部へ一体化する要望をいただきました。

この要望について、吉里吉里学園の保護者、地域住民及び町議会の皆様等に意見を伺った上で総合的に判断した結果、中学部の施設を小学部に一体化することとしました。このことから、今後、公平・円滑に施設整備を進めるため以下のとおり基本的な方針及び計画を定めるものです。

## 2 背景

### (1) 教育大綱

吉里吉里学園の施設整備は、令和 7 年 2 月に改訂した教育大綱に沿って行う必要がある。

**理 念** 学びがふるさとを育て、ふるさが学びを育てる町おおつち

**全体方針** 2050 年の大槌をつくる教育を「ともに」つくる

### **基本方針**

#### ①これからの大槌をつくる新しい学びをつくる

- ・個別最適な学びと協働的な学びを通じて確かな学力を
- ・学びと業務効率化を両立する教育 DX の推進
- ・主体性のある探究学習をどの世代でも

#### ②0 歳から 18 歳までの一貫した魅力的な教育をつくる

- ・大槌学園・吉里吉里学園・大槌高校の一貫した魅力化の推進
- ・幼保小の架け橋プランの充実

#### ③地域と共に学び合う学校をつくる

- ・PTA や地域と一体となった学校運営協議会、地域学校協働活動の推進
- ・学園のふるさと科や大槌高校の三陸みらい探究等、地域と連携協働した科目の充実
- ・地域と連携協働した部活動体制の確立

- ④誰もが安心して学ぶことのできる大槌の教育をつくる
- ・ 0歳から18歳までの子どもたちの居場所づくり
  - ・ 特別な支援を要する子どもへの個に応じた自己実現の支援
  - ・ 不登校児童生徒・保護者への寄り添った支援
- ⑤学びに来たくなる大槌の教育・学習環境をつくる
- ・ 大槌のつくる魅力的な教育の発信・広報
  - ・ 教育関係人口、教育移住の創出。生活環境の支援
  - ・ 学びの充実に向けた教育環境の整備
- ⑥教育関係者が働き続けたいとなる環境をつくる
- ・ やりがい、働きがいのある職場へ
  - ・ 働きがい、学びがい創出のための視察・研修等の機会の拡充
- ⑦世代を超えたつながりある地域をつくる ・（「学ぶ」「集う」「結ぶ」を実現する公民館を核とした地域活動の充実
- ・ 芸術文化・読書・スポーツの推進と環境整備
  - ・ 姉妹都市との友好関係を活かした国際交流
  - ・ 郷土固有の伝統文化と文化財に触れる機会の充実
- ⑧命を守る防災学習の在り方をつくる
- ・ 学校教育や地域活動と連携をしながら実現する防災意識の向上

## (2) 児童・生徒数見通し

今後の児童・生徒数を考慮し、学校を適正規模で適正配置する必要がある。

[吉里吉里学園の児童・生徒数見通し]

(単位：人)

年度 項目	R 7	R 8	R 9	R 10	R 11	R 12	R 13
小学部	72	66	59	57	57	47	50
中学部	27	28	39	40	35	38	32
合計	99	94	98	97	92	85	82

[令和7年5月1日現在]

## (3) 施設一体化の意義

- ・ 吉里吉里学園は、保護者や住民と連携協働し、地域の教育、コミュニティ、防災を支える重要な拠点である。
- ・ 小規模特認校（町内のどこからでも就学を認める制度）の導入により、少人数での学びを希望する児童・生徒のニーズに応えることができる。
- ・ 施設を一体化する場合は、現行の小中一貫校より義務教育学校とする方が利点が多い。

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> <li>▶中1ギャップの解消</li> <li>▶教員の加配、小中教員の協働</li> <li>▶9年間の系統的な教育が可能（指導時期・時数を柔軟に設定可能）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▶小学校卒業の達成感がない</li> <li>▶人間関係の固定化</li> <li>▶転入職員の不慣れによる負担感の増加</li> </ul>

#### (4) 学校設備

- ・施設の長寿命化のほか、時代に合った学習環境の整備等の改修が必要
- ・中学部を小学部へ施設一体化した場合の影響
  - ア 教室数の不足については、物理的には間仕切り等で教室を分割することにより対応可能
  - イ 校庭と体育館の面積が学校設置基準を下回ることになるが、増築等をせずに、教育活動で達成すべき内容は教科指導の工夫などによって保障可能

### 3 施設整備基本方針

今後の児童生徒数の減少等を総合的に判断した結果、小学部の施設へ一体化し、教育大綱に掲げる方針“2050年の大槌をつくる教育を「ともに」つくる”の実現に向けて、義務教育学校制度と小規模特認校制度を活用しながら魅力的な教育環境を整備します。

#### (1) 小学部に中学部を施設一体化します。

##### ア 施設一体化する理由

- ・児童・生徒数の減少に対応し適正な施設規模に近づける。
- ・各校単独での行事開催が難しくなっている。

##### イ 小学部に一体化する理由

- ・中学部（平成5年竣工）より小学部（平成16年竣工）の施設が新しく、健全度が高い。
- ・中学部の場所は令和4年3月付け岩手県津波浸水想定エリア内に位置し、小学部の方が安全である。

##### ウ 施設一体化工事について

- ・原則新築・増築・改築（建て直し）は行わず、改修に留める。

#### (2) 施設一体化工事と同時に、長寿命化に係る改修工事を実施します。

吉里吉里学園小学部において、長寿命化に係る改修工事が必要な時期であることから、施設一体化工事を同時に実施することで工期及び費用の圧縮を図る。

また、洋式トイレ・空調の増設、電灯LED化、防犯設備設置等、時代に合った改修を検

討する。

### (3) 施設一体化にあたり、義務教育学校及び小規模特認校制度を導入します。

#### ア 義務教育学校とする理由

- ・中1ギャップの解消
- ・教職員の加配及び小中職員の協働
- ・9年間の系統的な教育が可能（指導時期・時数を柔軟に設定可能）

#### イ 小規模特認校制度を導入する理由

- ・小規模校として特色ある教育を行うことから、少人数での学びを希望する児童・生徒のニーズに応えることができる。

## 4 施設整備基本計画

### (1) 実施内容

- ・令和7年度から保護者・教職員・地域の代表者などで構成する「吉里吉里学園施設一体化準備委員会」を設置し、施設一体化に向け必要な協議を行う。
- ・施設一体化整備については、可能な限り早期に取り組む。
- ・工事中は、中学部校舎で小学部の授業ができるよう検討する。
- ・学校施設環境改善交付金の活用等、適切な財政措置を図る。

### (2) 工事の内容

#### ア 施設一体化工事

普通教室及び特別教室の部屋数確保、不要な壁の撤去、中学校規格の設備を追加設置、収納設備設置、駐車場整備等

#### イ 長寿命化に係る改修工事

屋根改修、外壁改修、雨漏り修繕、亀裂補修等

#### ウ その他工事

洋式トイレ・空調の増設、電灯LED化、防犯設備設置等

### (3) スケジュール

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
保護者・地域の住民	意見 収集	施設一体化準備委員会		
吉里吉里学園				
施設整備				
		基本設計・実施設計	施工監理・工事	施設一体化完了